

学校長あいさつ

本校ホームページをご覧ください、ありがとうございます。

本校は、昭和35年3月1日沖縄整肢療護園が開園し、小さな分教場が設置され本校の歴史がスタートしました。那覇市立神原小学校・那覇市立寄宮中学校分教場から始まり、9年後の昭和44年12月15日に分教場は琉球政府立那覇養護学校として独立認可され、今年で創立55年目を迎えます。

特別支援教育本格実施に伴い、平成21年「沖縄県立那覇特別支援学校」となり、児童生徒全員が集える“希望(ゆめ)の樹広場”や室内プールなど設備も充実してきました。

本校の教育目標は、(1)社会参加する力を育てる、(2)「自立」する力を育てる、(3)「学ぶこと」を楽しみ、粘り強くやり抜く力を育てることです。校名にちなみ「希望(ゆめ)がある 笑顔がある みんなが那覇特(なっとく)する学校」をモットーに教育目標の達成に取り組んでいます。また、開校当初より隣接する「沖縄南部療育医療センター」(元:沖縄整肢療護園)の入所者も通学しており、保護者及び地域社会とのつながりを大事にしながらコロナ感染症蔓延期を乗り越え、長きにわたり児童生徒の安全・安心な教育活動も進めています。

さて、令和6年度は、4月1日現在で小学部3名、中学部8名、高等部9名の全児童生徒数20名のスタートとなりましたが、県内の特別支援学校の中では極小規模校ながら活気と和気あいあいとした雰囲気の中で4月8日始業式、4月9日入学式を挙行することができました。

本年度も引き続き、「聞いてなっとく(那覇特) 見てなっとく(那覇特) 知ってなっとく(那覇特) できてなっとく(那覇特)」をスローガンに掲げ、教職員一同が児童生徒個々の実態に応じた指導・支援力を発揮し、児童生徒の「やりたい」を「やってみる(挑戦する)」意欲につなげ、好きなことはもっと好きに、苦手なことにも挑戦する、新しいことにも興味をもってチャレンジする児童生徒の育成と子どもたちを真ん中にした学校教育が転換できるよう、1歩ずつ進めいきたいと思えます。



本校のシンボル
『希望(ゆめ)の樹』



【校章】

中央のオレンジ色は、「太陽」を表しています。「太陽」は、万物の源です。私たちが太陽のように明るく力強く生きたいものです。

朱色は、「でいご」の花を表しています。「でいご」は、県花で、いかなる困難にもくじけない心意気を示しています。周りの車輪は、車椅子を表しています。三つの車輪は、みんなが力を寄せ合って、社会の厳しさに打ちかかると願いが込められています。

ホームページを通して、本校の児童生徒が明るく、元気に学んでいる活動ぶりをご覧ください、今後とも本校の教育に一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和6年4月

沖縄県立那覇特別支援学校

校長 下地 直子